

平成 27 年度教育研究活動自己点検・評価報告に対する副学長コメント

1 教育活動

「面倒見のいい大学」「教育中心の大学」を目指している本学の特性に則した授業活動、実習指導活動、教育改善活動が実践されており、日々の先生方のご努力に敬意を表する。ただし、この努力や活動に見合った成果が国家試験合格率や標準期間内卒業率に反映されていない。現在、学長の諮問により、運営会議でこの問題点について分析、検討中であるが、先生方のご努力が客観的事実として認められるようにしていきたい。

個人の自己点検評価報告書を拝見すると、これらの状況を反映してか、客観的に見て非常に努力されている先生が低評価としている。逆に、この現状であるにもかかわらず、最高評価としている先生もある。これは、個人レベルでの努力を評価するか、結果がともわなければ意味がないと考えるのかの個人的見解の違いであろうと思われるが、自己点検評価報告書を何らかの評価材料として用いるのであれば、基準の統一は必要となろう。

2 研究活動

本学の特性である教育重視の姿勢が顕著に表れている。研究活動の評価は概して低い。教育活動に専念している現状では致し方ない部分もあるが、大学は、研究成果を社会に還元していくことも大きな使命として担っており、現状制度下の大学として活動していくのであれば、研究活動が十分にできる環境整備も必要であろう。ただ、本学の特性を鑑みると、専門職大学への移行は、現在の本学の特性にマッチしたものであり、今後検討していく必要がある。

個人レベルでは、研究したくてもできない状況にある教員と、教育が多忙であることを言い訳して研究を行わない教員に分けられる。後者については、大学教員としてふさわしいのかを個人的に今一度、分析していただきたい。

3 社会貢献活動

社会貢献活動には、それなりの時間的余裕が必要である。教育にほとんどの時間がとられる現状では、概して低い評価とならざるを得ない。教育に専念している教員からすると、社会貢献ができる時間があるのか、という疑問も生じるであろう。社会貢献活動は、個人的な活動のみならず、大学の知名度を上げる機会でもあることから、積極的に貢献することを期待する。

4 大学運営活動

委員会活動を中心に、先生方のご努力は、これ以上望めないほどであると感じる。各委員会は、教育重視の本学の特性を反映し、その活動の殆どを学生教育のための議論に費やしている。運営会議として、何とか客観的な成果が示せる方策を考え、先生方のご努力に報いることを考えていきたい。

5 総括

教育・運営については、先生方のご努力に敬意を表する。研究についても教育・運営に多くに時間を割く現状では十分に成果が上がらないこともよく理解できる。これまでは、教育・研究のバランスを考えて各教員が行動することを期待していたが、現状では、また、本学の特性上、「教育か、研究か」といった、先生方の特性に応じた業務の分担が必要なのではないかと思うに至っている。一人の教員が現況の教育体制をとりながら研究をすることは事実上、不可能と思われる。今後は、教員特性に応じた業務分担や先述したように、本学の特性にマッチした専門職大学への移行なども考えていかなければならないのではないかとと思われる。

以上

平成 28 年 5 月

大阪保健医療大学
副学長 石倉 隆